

2023年卒
Vol.05

3月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2023 学生モニター調査結果 (2022年3月発行)

2023年卒の採用広報が3月1日に解禁された。コロナ禍は続いているものの、企業の採用意欲が回復基調に転じる中で、学生はどのように活動を進めているだろうか。キャリアス就活・学生モニターを対象に、解禁直後の就職活動状況や意識について調査を行った。

1. 3月1日時点の志望業界

○1位「情報処理・ソフトウェア」、2位「インターネットサービス」。IT人気続く

2. エントリー状況

○一人あたりのエントリー社数の平均は19.6社。前年同期(23.3社)より3.7社減

○今後の予定社数の平均は11.6社。前年調査(10.7社)をやや上回る

3. セミナー・会社説明会の参加状況

○参加社数の平均は、オンライン形式10.7社、会場型3.3社。いずれも前年より増加

○参加したいセミナーは、形式を問わず「社員と話せる場が設けられている」が最多

4. 企業研究を行う上で知りたい情報

○「実際の仕事内容」が最多。「社風」「給与水準・平均年収」「求める人材像」が続く

5. 選考試験の受験状況

○ES提出者は8割(81.0%)、面接試験受験者は7割(70.8%)。前年よりさらに増加

○平均社数は、エントリーシート6.3社、筆記4.6社、面接3.9社。いずれも増加

6. 3月1日現在の内定状況

○内定率は28.6%。前年同期実績(21.1%)を7.5ポイント上回る

○内定企業の7割強(74.1%)が「インターンシップ参加企業」。活動終了者は全体の5.5%

7. 本命企業(第一志望)の選考状況

○「本命企業の選考(面接)はこれから」56.1%、「現在受けている」20.6%

8. 今後の就職活動の方針と終了希望時期

○「気になる企業にはとりにあわずエントリー」が圧倒的に多い(67.0%)

○就活を終了したい時期は、選考解禁後の6月が最も多、早い時期のポイントが軒並み増加

※「インターンシップ(就業体験を伴う複数日程のプログラム)」に限定せず、1日以内のプログラムも含めて調査

※「内定」には、内々定を含む

調査概要

調査対象 : 2023年3月に卒業予定の大学3年生(理系は大学院修士課程1年生含む)

回答者数 : 1,302人(文系男子438人、文系女子382人、理系男子335人、理系女子147人)

調査方法 : インターネット調査法

調査期間 : 2022年3月1日~6日

サンプリング : キャリタス就活2023学生モニター

1. 3月1日時点の志望業界

まず、解禁時点でどのような業界を志望しているのかを確認したい。

現時点で志望業界を「決めている」学生は 89.6%と約 9 割。2 月調査では 81.3%だったので、この 1 カ月で 8.3 ポイント増加した。解禁に向けて業界を定める動きが加速したと見られる。

「決めている」と回答した学生に具体的な業界を尋ねたところ (40 業界から 5 つまで選択)、最も多いのは「情報処理・ソフトウェア」(19.6%) で、次いで「情報・インターネットサービス」(18.4%)。引き続き IT 業界に人気が集まっている。とりわけ男子において順位が高い。

文理別に見ると、文系は「銀行」の順位が高く、男子で 1 位、女子で 2 位。文系女子の 1 位は「マスコミ」。理系は IT とメーカーが上位を占める。理系男子は「情報処理・ソフトウェア」が 1 位で、「素材・化学」が 2 位。理系女子は「水産・食品」と「医薬品・化粧品」が同率 1 位。

<志望業界の決定状況>

(%)

| | 全体 | (前年全体) | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
|--------|------|--------|------|------|------|------|
| 決めている | 89.6 | 89.8 | 87.4 | 85.1 | 94.3 | 96.6 |
| 決めていない | 10.4 | 10.2 | 12.6 | 14.9 | 5.7 | 3.4 |

<志望業界(上位 20 業界)>

※5つまで選択 (%)

| | 全 体 | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
|----|---------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 1 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ① 19.6 | 銀行 25.1 | マスコミ 17.8 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 25.3 | 水産・食品 27.5 |
| 2 | 情報・インターネットサービス ② 18.4 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 21.1 | 銀行 16.9 | 素材・化学 22.8 | 医薬品・医療関連・化粧品 27.5 |
| 3 | 水産・食品 ⑤ 15.4 | 情報・インターネットサービス 19.6 | 情報・インターネットサービス 15.4 | 自動車・輸送用機器 21.5 | 素材・化学 26.8 |
| 4 | 素材・化学 ⑥ 14.3 | 調査・コンサルティング 16.4 | 水産・食品 14.2 | 情報・インターネットサービス 21.2 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 16.2 |
| 5 | 銀行 ③ 14.2 | 建設・住宅・不動産 15.1 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 13.8 | 電子・電機 19.3 | 情報・インターネットサービス 16.2 |
| 6 | 建設・住宅・不動産 ④ 14.2 | 商社(専門) 15.1 | 建設・住宅・不動産 13.2 | 機械・プラントエンジニアリング 17.7 | 官公庁・団体 14.1 |
| 7 | 調査・コンサルティング ⑭ 13.0 | 運輸・倉庫 14.9 | 官公庁・団体 12.6 | 建設・住宅・不動産 14.6 | 建設・住宅・不動産 12.7 |
| 8 | 電子・電機 ⑦ 12.0 | 水産・食品 13.1 | 調査・コンサルティング 12.0 | 水産・食品 13.9 | 電子・電機 12.7 |
| 9 | 官公庁・団体 ⑨ 11.0 | 商社(総合) 13.1 | 商社(専門) 12.0 | エネルギー 13.0 | 機械・プラントエンジニアリング 11.3 |
| 10 | 医薬品・医療関連・化粧品 ⑧ 10.5 | 官公庁・団体 11.7 | 商社(総合) 9.8 | 精密機器・医療用機器 12.7 | 精密機器・医療用機器 10.6 |
| 11 | 商社(専門) ⑮ 10.2 | マスコミ 10.7 | 運輸・倉庫 9.2 | 調査・コンサルティング 12.0 | エネルギー 9.2 |
| 12 | 自動車・輸送用機器 ⑪ 9.8 | 保険 9.7 | 人材サービス・人材紹介・人材派遣 9.2 | 医薬品・医療関連・化粧品 11.4 | 調査・コンサルティング 8.5 |
| 13 | エネルギー ⑰ 9.8 | エネルギー 9.4 | 電子・電機 8.9 | ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 8.9 | 農業・林業・鉱業 7.7 |
| 14 | マスコミ ⑩ 9.7 | 素材・化学 8.9 | 医薬品・医療関連・化粧品 8.9 | 通信関連 8.5 | 商社(専門) 7.0 |
| 15 | 運輸・倉庫 ⑪ 9.3 | 証券・投信・投資顧問 8.6 | 通信関連 8.6 | 鉄鋼・非鉄・金属製品 7.9 | 通信関連 7.0 |
| 16 | 機械・プラントエンジニアリング ⑱ 9.2 | 電子・電機 8.4 | 保険 8.3 | 官公庁・団体 7.0 | 印刷・パッケージ 6.3 |
| 17 | 商社(総合) ⑬ 8.5 | 信用金庫・労働金庫・信用組合 8.4 | その他サービス 8.0 | 農業・林業・鉱業 6.6 | 自動車・輸送用機器 5.6 |
| 18 | 通信関連 ⑳ 7.8 | エンターテインメント 7.6 | エネルギー 7.4 | 運輸・倉庫 5.4 | マスコミ 4.2 |
| 19 | 精密機器・医療用機器 ⑲ 7.6 | 通信関連 7.0 | 素材・化学 7.1 | 印刷・パッケージ 4.4 | 鉄鋼・非鉄・金属製品 4.2 |
| 20 | 保険 ⑯ 6.2 | 信販・クレジット・ファイナンス 7.0 | ホテル・旅行 7.1 | 商社(総合) 3.8 | 銀行 3.5 |
| | | | | 商社(専門) 3.8 | 商社(総合) 3.5 |
| | | | | | ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 3.5 |
| | | | | | その他サービス 3.5 |

※○の中の数字は前年同調査の全体順位

※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

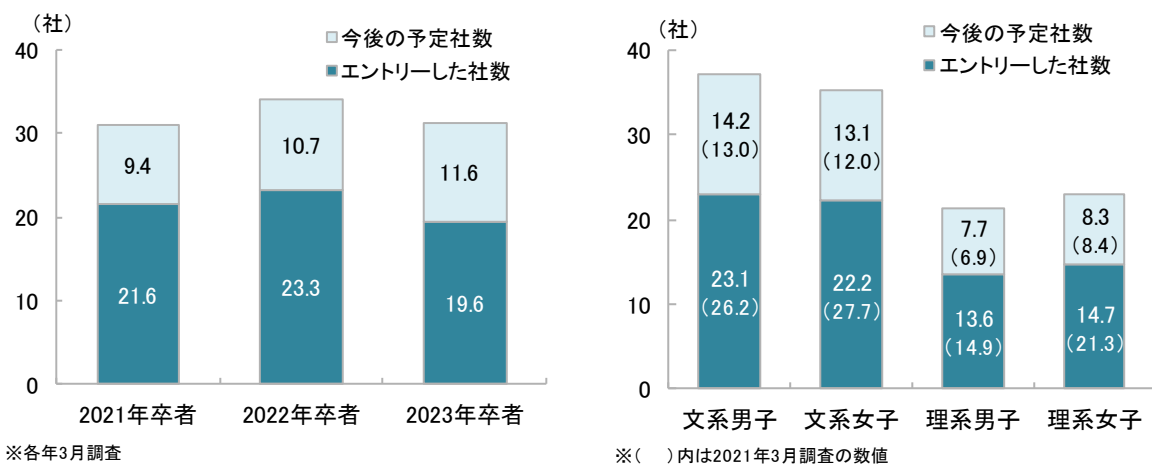
2. エントリー状況

3月1日時点でエントリーした社数と、今後の予定社数を尋ねた。

一人あたりのエントリー社数の平均は 19.6 社で、前年同期実績 (23.3 社) を 3.7 社下回った。就職活動の早期化が進むなかで、エントリーする企業を事前に絞り込む傾向が強まっている。ただ、今後のエントリー予定社数に関しては平均 11.6 社と、前年調査 (10.7 社) よりやや多い。早い時期に接点を持った企業から良い感触を得られず、視野を広げようという学生も少なくないのだろう。

これを文理男女別に確認すると、すべての属性でエントリー社数は減少しており、属性を問わず絞り込みが進んだ様子が見て取れる。ただし、文系は男女とも20社を超え、今後のエントリー予定も理系に比べ多い (文系男子14.2社、文系女子13.1社)。

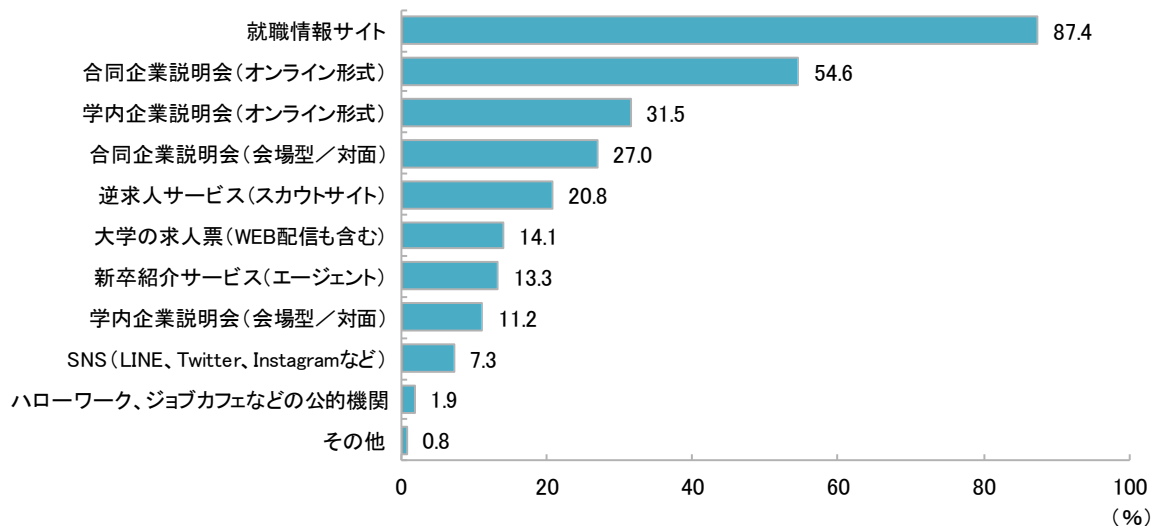
＜エントリー社数＞



今後新たな企業にエントリーを予定している学生に、企業を探す手段を尋ねた。

最も多かったのは「就職情報サイト」で、9割近くが企業探しに活用していると回答した (87.4%)。次いで「合同企業説明会 (オンライン形式)」(54.6%)、「学内企業説明会 (オンライン形式)」(31.5%)、と続く。移動の時間や交通費などのコストがかからない WEB を中心に、情報収集や企業探しを進めたいと考えている学生が多いことがわかる。

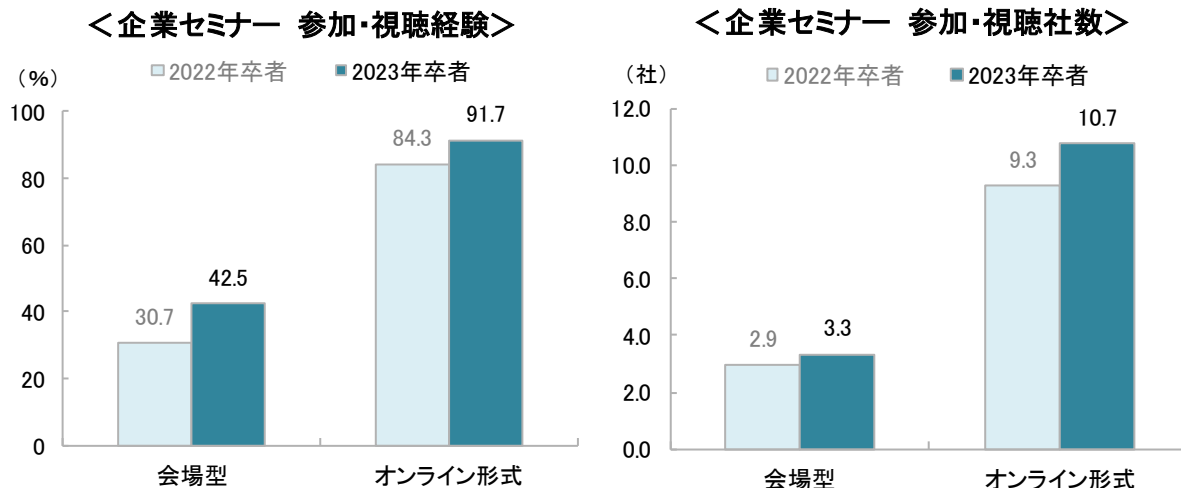
＜新たな企業を探す手段＞



3. セミナー・会社説明会の参加状況

会社説明会（個別企業のセミナー）の参加状況を、開催形式ごとに確認した。「オンライン形式（WEBセミナー）」に参加経験がある学生は全体の約9割（91.7%）に上り、会場型は4割強（42.5%）。ともに前年同期を上回る参加率を示している。参加（視聴）社数の平均は、会場型で平均3.3社、オンラインでの視聴は10.7社。ともに前年より増加している。なお、受験率・社数のいずれも、理系より文系が多い。

今後の参加予定社数については、形式を問わず尋ねた。全体の平均は8.0社で、前年調査（8.7社）をやや下回る。

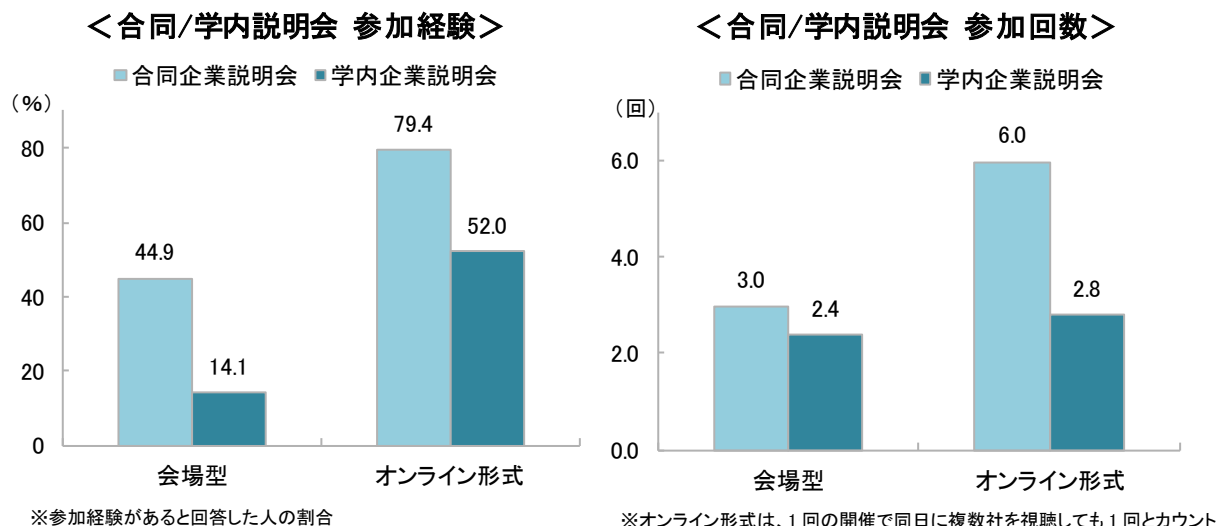


<企業セミナー参加・視聴社数(属性別)>

| | 全体 | (前年全体) | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
|-----------|------|--------|------|------|------|------|
| 会場型 | 3.3 | 2.9 | 4.0 | 3.2 | 2.8 | 2.9 |
| オンライン形式 | 10.7 | 9.3 | 11.0 | 12.3 | 9.5 | 8.8 |
| 今後の参加予定社数 | 8.0 | 8.7 | 8.9 | 10.1 | 4.9 | 6.1 |

※「今後の参加予定社数」は形式を問わず尋ねた

就職情報会社などが主催する合同企業説明会と、大学主催の学内企業説明会についても参加状況を確認した。会場型、オンライン形式ともに合同企業説明会の方に多く参加している様子が見て取れる。

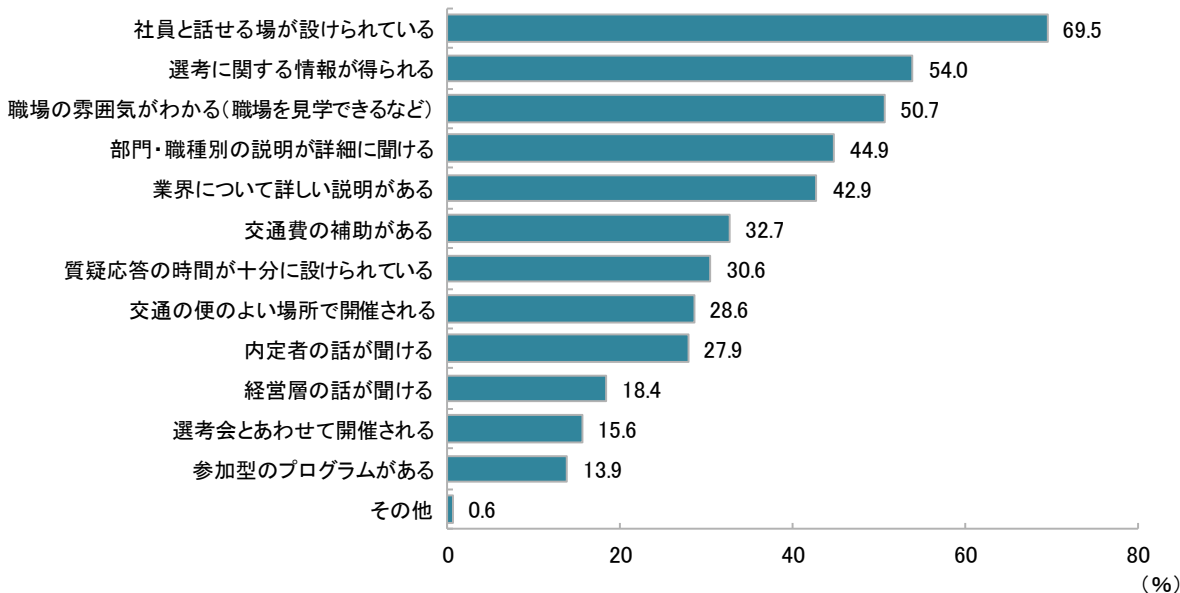


どのような内容の企業セミナーに参加したいかを、形式別に尋ねた。会場型・オンライン形式ともに、最も多いのは「社員と話せる場が設けられている」。特に、会場型では7割に上り(69.5%)、オンライン形式(61.9%)を大幅に上回る。対面で直に社員と話したいと考える学生が多いことがわかる。2位は「選考に関する情報が得られる」で、選考フローやスケジュールなどの情報を求めていることが読み取れる(会場型54.0%、オンライン形式58.5%)。

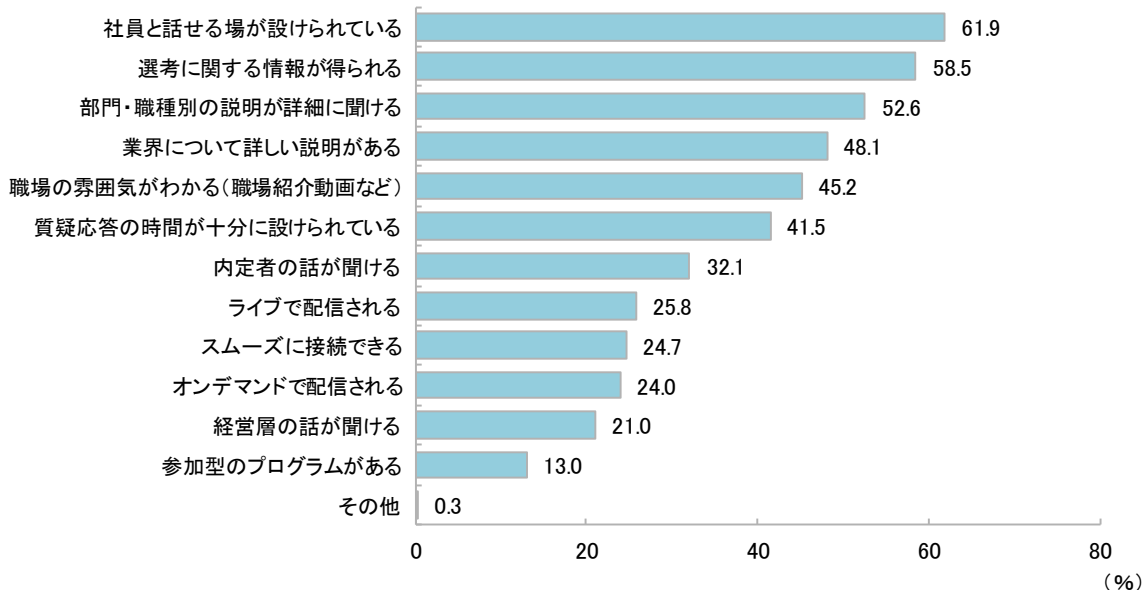
「職場の雰囲気がわかる(職場を見学できるなど)」が会場型の3位で、過半数が選んだ(50.7%)。実際に会社に足を運ぶことで、社風を感じ取ったり、働く姿をイメージしたりしたいのだろう。オンライン形式でも、「職場の雰囲気がわかる(職場紹介動画など)」は45.2%の学生が選んでおり、オンラインであっても職場の雰囲気を知りたいと考える学生は少なくない。

＜参加したいと思う企業セミナー（形式別）＞

【会場型】



【オンライン形式】



4. 企業研究を行う上で知りたい情報

企業研究を進める上で知りたい情報を尋ねた。最も多いのは「実際の仕事内容」で、8割超(83.5%)が選び、ポイントが集中している。次いで「社風」(62.5%)が続く。先に見たように、現場社員との対話を通じて、具体的な仕事内容の理解を深めたり、社風を感じ取ったりすることで、自分に合う企業かどうか見極めたいということだろう。「給与水準・平均年収」「福利厚生制度」「残業・休日出勤の実態」などの条件面に加え、「求める人材像」「他社と比べた強み・弱み」などエントリーシートや面接などを見据えた項目も上位に入る。

なお、文理男女別でばらつきが見られる。全体的に女子のポイントが高めだが、特に「女性の活躍度合い」「福利厚生制度」「柔軟な働き方の制度・実態」「離職率」などで差が目立つ。長く働くことができ、活躍できる環境を求めていることがうかがえる。

<企業研究を行う上で知りたい情報>

(%)

| | 全体 | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
|----------------|------|------|------|------|------|
| 実際の仕事内容 | 83.5 | 81.3 | 83.0 | 84.2 | 89.8 |
| 社風 | 62.5 | 58.7 | 68.3 | 56.7 | 74.1 |
| 給与水準・平均年収 | 54.8 | 57.5 | 46.3 | 59.4 | 60.5 |
| 求める人材像 | 52.3 | 53.2 | 56.3 | 47.5 | 52.4 |
| 他社と比べた強み・弱み | 49.7 | 47.5 | 47.1 | 51.9 | 59.9 |
| 残業・休日出勤の実態 | 46.2 | 43.4 | 49.2 | 41.8 | 58.5 |
| 福利厚生制度 | 44.9 | 37.2 | 52.1 | 43.6 | 54.4 |
| 転勤・異動の多さ | 37.2 | 32.4 | 41.9 | 35.2 | 45.6 |
| キャリアパス | 36.6 | 35.4 | 36.6 | 36.4 | 42.9 |
| 経営者の考え・ビジョン | 36.1 | 34.2 | 41.9 | 33.1 | 35.4 |
| 教育・研修制度 | 34.5 | 29.9 | 38.0 | 34.9 | 40.1 |
| 柔軟な働き方の制度・実態 | 34.1 | 31.3 | 38.2 | 29.0 | 45.6 |
| 業界内のポジション | 33.5 | 33.8 | 26.2 | 40.9 | 36.7 |
| 離職率 | 32.2 | 30.4 | 37.4 | 25.7 | 40.8 |
| 企業業績 | 32.2 | 33.3 | 28.5 | 34.6 | 34.7 |
| 有休消化率 | 29.1 | 26.7 | 29.3 | 28.1 | 40.1 |
| 採用実績 | 24.5 | 26.0 | 24.1 | 23.9 | 24.5 |
| 人事評価制度 | 19.9 | 24.4 | 16.5 | 20.3 | 16.3 |
| 女性の活躍度合い | 17.9 | 4.1 | 37.4 | 3.0 | 44.2 |
| 正社員に占める中途採用の割合 | 5.8 | 5.7 | 7.3 | 5.1 | 5.4 |
| その他 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 0.9 | 1.4 |

■企業研究や志望企業選びに関する悩みなど

- 今まで知らなかった企業を多く知ることができている反面、まだ他にも自分に合う企業があるかもしれないと、現状に不安を感じる。いくつ選考を受ければいいかをなかなか決められない。 <文系男子>
- 就職活動の軸があまり定まらず、企業を絞ることができていない状況。 <文系女子>
- 企業研究する中で良い企業が多くあり、自分の中で迷いが生じている。 <理系男子>
- どんな会社か、説明会を聞いただけではわからないことも多い。 <理系男子>
- 自分にも無理なく続けられそうな仕事を選ぶか、難易度の高い仕事に挑戦するか悩んでいる。また、やりたい仕事で会社を選ぶか給与面で会社を選ぶか悩んでいる。 <文系女子>
- 転勤の可能性や実際の配属先が気になって、志望企業を決めきれない。 <理系男子>
- 内定をもらっている企業や、選考が進んでいる企業があるが、その企業が本当に自分に合っているかが心配。また本当に活躍できるか、自分がなりたい姿になれるかという部分で心配がある。 <文系男子>

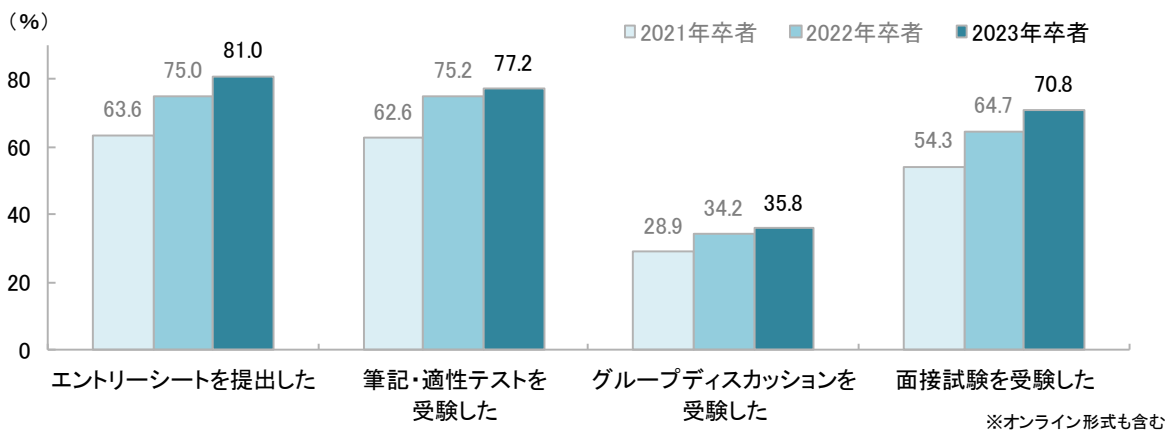
5. 選考試験の受験状況

選考試験（本選考）の受験状況を見てみよう。

エントリーシート（ES）を提出した学生は全体の 81.0% で、早くも 8 割が提出経験をもつ。前年同期調査（75.0%）よりさらに増加し、提出のタイミングが一段と早まった様子がわかる。一人あたりの提出社数についても前年同期を上回る（平均 5.5 社→6.3 社）。

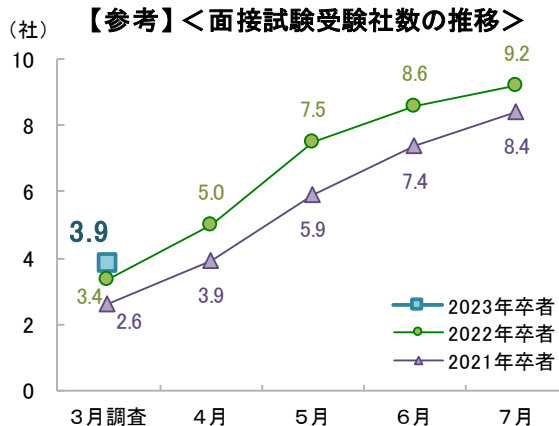
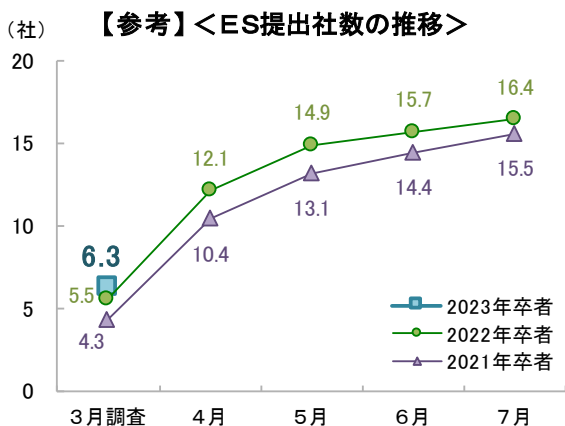
筆記・適性テストを受験した学生は 7 割強（77.2%）、面接受験者が 7 割を超えるなど（70.8%）、選考受験率の増加傾向が続いている。インターンシップ等から選考に進むケースが増えた影響だろう。早く選考を進めて学生を囲い込みたいという企業側の意識が読み取れる。

＜選考試験の受験状況＞



＜選考試験の受験社数＞

| | (社) | | | | | |
|--------------|-----|--------|------|------|------|------|
| | 全体 | (前年全体) | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
| エントリーシート | 6.3 | 5.5 | 7.0 | 5.9 | 5.9 | 5.7 |
| 筆記・適性テスト | 4.6 | 4.3 | 5.0 | 4.5 | 4.2 | 4.5 |
| グループディスカッション | 2.3 | 2.3 | 2.2 | 2.6 | 2.0 | 2.1 |
| 面接試験 | 3.9 | 3.4 | 4.2 | 4.0 | 3.4 | 3.6 |



6. 3月1日現在の内定状況

3月1日時点で内定を得ている学生は全体の28.6%。前回調査(20.2%、2月調査)からの1カ月間に8.4ポイント上昇し、就活解禁とは言うものの、すでに3割近くが内定を手に入れている。前年同期実績(21.1%)を7.5ポイント上回っており、現在の日程ルールが7年目を迎える中で、早期化が進行していることがうかがえる。

内定企業の7割強(74.1%)がインターンシップ(※)に参加した企業(グラフは次ページに掲載)。内定までの対面接点については、「複数回ある」が31.5%で、「1回ある」が23.8%。コロナ禍が続く中でも内定までに対面で接点を持つケースが前年より増え、半数を超えている(計48.0%→計55.3%)。

なお、内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは19.0%で、大半は内定を得ても就職活動を継続。モニター学生全体を分母にとると就活終了者(就職先決定)は5.5%となり、多くの学生にとって本番はこれからと言える。ただし、理系男子においては終了者の割合が高い(10.4%)。

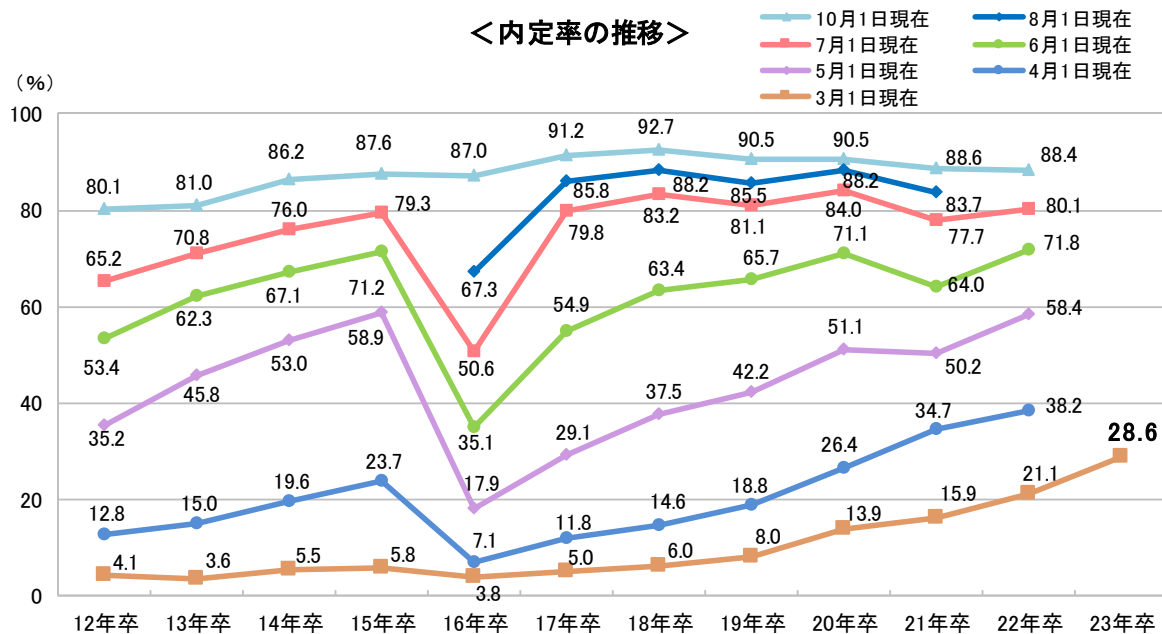
(※1日以内のプログラムも含めて調査)

<3月1日現在の内定状況> *「内定」には、内々定を含む

| | | 全体 | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
|--------|-----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 内定あり | | 28.6 (21.1) | 23.5 (20.2) | 28.3 (20.3) | 32.5 (23.0) | 36.1 (21.1) |
| 内定なし | | 71.4 (78.9) | 76.5 (79.8) | 71.7 (79.7) | 67.5 (77.0) | 63.9 (78.9) |
| 内定者のうち | 就職先を決定し活動終了 | 19.0 (15.3) | 9.7 (7.0) | 14.8 (13.4) | 32.1 (20.8) | 18.9 (30.0) |
| | 活動は終了したが複数内定保持 | 2.1 (1.1) | 2.9 (0.0) | 3.7 (1.2) | 0.0 (1.3) | 1.9 (3.3) |
| | 進学などの理由で就職活動を中止 | 0.8 (0.4) | 1.0 (0.0) | 0.0 (0.0) | 0.9 (1.3) | 1.9 (0.0) |
| | 就職活動継続 | 78.0 (83.3) | 86.4 (93.0) | 81.5 (85.4) | 67.0 (76.6) | 77.4 (66.7) |

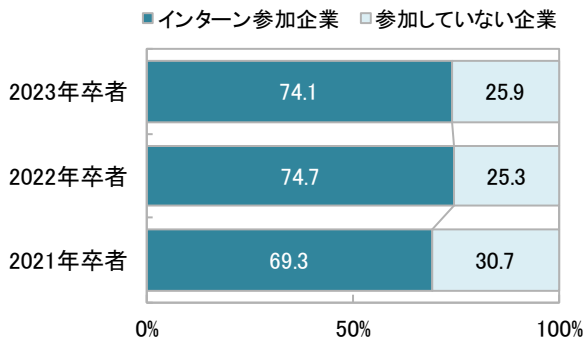
| | | 全体 | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
|---------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 内定社数/平均 | | 1.5 (1.3) | 1.5 (1.3) | 1.5 (1.4) | 1.5 (1.4) | 1.6 (1.3) |

※ () 内は前年(3月1日現在)の数値



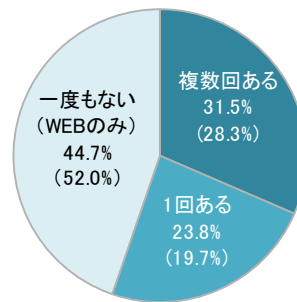
※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~22卒は6月 ※15年卒以前は8月のデータはなし

＜内定を得た企業のインターン参加＞



※1日以内のプログラムも含む

＜内定を得た企業の対面での接点＞



※インターン、セミナー、面接などでの接点
※()内は2021年3月調査の数値

内定を得ている学生に内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた (全 40 業界。複数回答あり)。志望業界 1 位の「情報処理・ソフトウェア」が内定業界でも 1 位で、多くの学生が志望し、実際に多くの内定が出ている様子が見て取れる。2 位「調査・コンサルタント」、3 位「建設・住宅・不動産」と続き、早期内定の多い業界と言い換えることもできそうだ。

＜内定を得た業界（上位 5 業界）＞

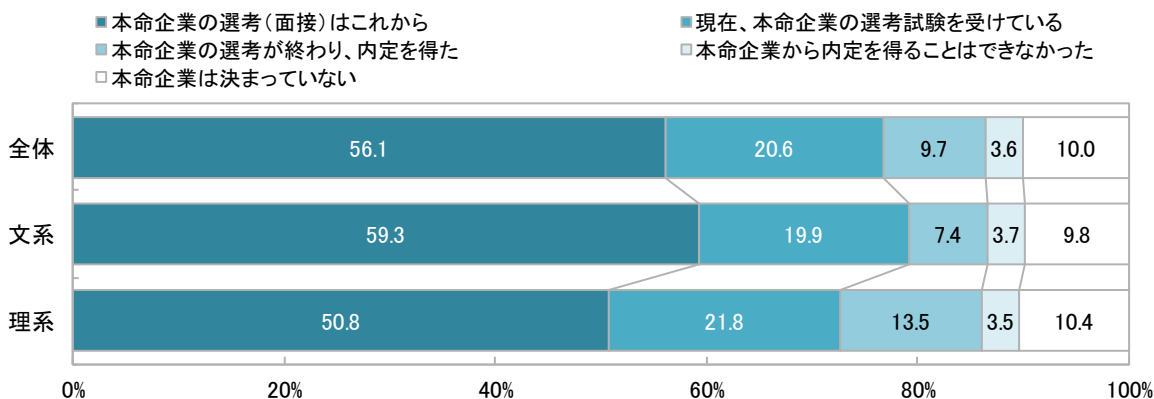
| | | (%) | | |
|---|-------------------------|-------------------------|-------------------------|--|
| | 全 体 | 文 系 | 理 系 | |
| 1 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 27.6 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 24.6 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 31.5 | |
| 2 | 調査・コンサルタント 22.3 | 調査・コンサルタント 24.2 | 調査・コンサルタント 19.8 | |
| 3 | 建設・住宅・不動産 12.1 | その他サービス 13.3 | 建設・住宅・不動産 17.9 | |
| 4 | 情報・インターネットサービス 11.5 | コンビニエンス・GMSストア 10.9 | 電子・電機 14.2 | |
| 5 | 人材サービス・人材紹介・人材派遣 9.9 | 専門店 10.4 | 情報・インターネットサービス 12.3 | |

※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

7. 本命企業（第一志望）の選考状況

これまでに最も入りたいと思った企業＝本命企業の選考（面接）が、どこまで進んでいるのかを尋ねた。応募前やESの結果待ちなどで「本命企業の選考（面接）はこれから」という回答が最も多く、5割強（56.1%）。「現在受けている」が約2割（20.6%）だった。内定率は高水準だが、本命企業の内定を手にするのはまだ先ようだ。

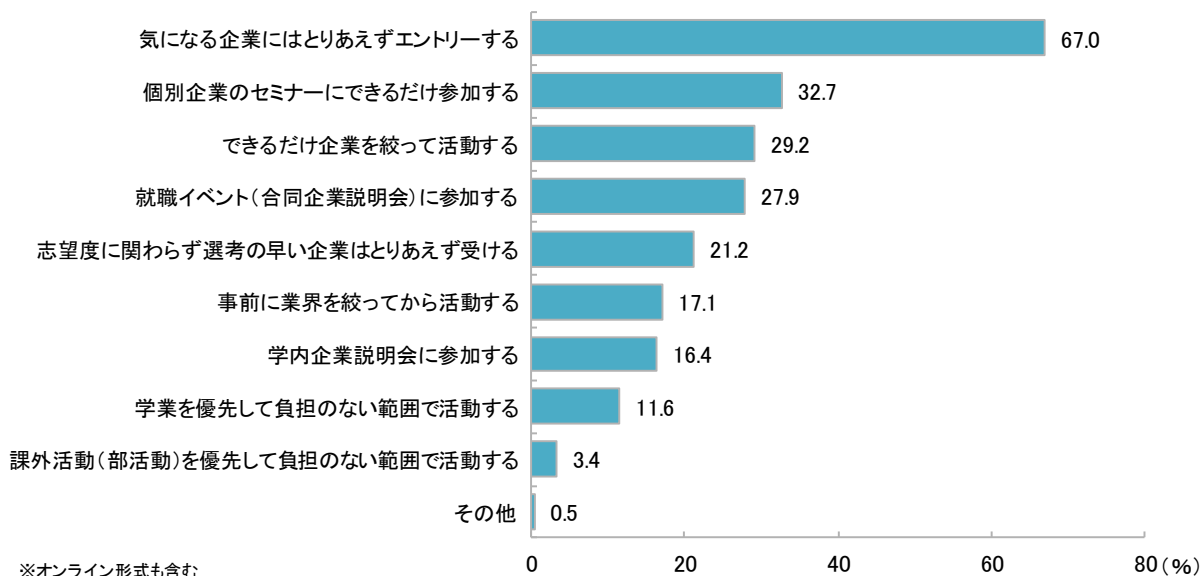
＜本命企業(第1志望)の選考状況＞



8. 今後の就職活動の方針と終了希望時期

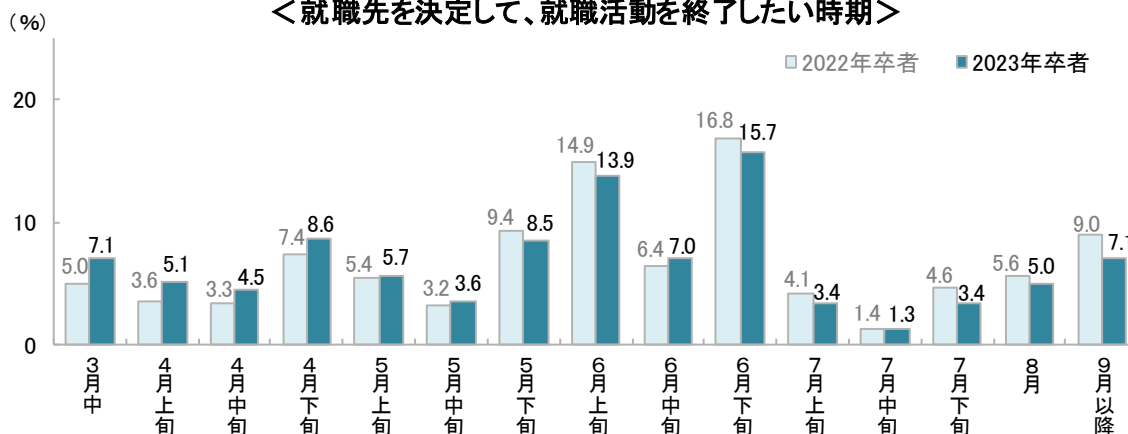
今後の就職活動の方針を尋ねたところ、「気になる企業にはとりにあらずエントリーする」が圧倒的に多い (67.0%)。ここに「個別企業のセミナーにできるだけ参加する」が3割超で続き (32.7%)、3月の解禁以降も、幅広く志望企業を探す意欲が感じられる。

＜3月1日時点の就職活動の方針＞



就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期を尋ねると、最も多いのは「6月下旬」(15.7%)で、次いで「6月上旬」(13.9%)。選考解禁後の6月を就職活動終了の目安と考えている学生が多い。ただし、3月や4月など早い時期のポイントが前年調査を上回っており、早期から選考を受けてきたことで「早く終えたい」と考える層が増えているようだ。

＜就職先を決定して、就職活動を終了したい時期＞



■今後の活動方針

- 今後も多くの企業の説明会を受けて、自分に合う企業と巡り会えたら嬉しいです。 <理系男子>
- 早く終えたいと思うことが何度もあるが、自分の将来のために挫けずに頑張ろうと思います。 <文系女子>
- 周りを見て焦らず、自分の就きたい仕事に就けるように頑張りたい。 <理系女子>
- 1社内定を得て気持ちが緩んでいる部分もあるので、気を引き締め直して第一志望に臨みたい。 <文系女子>
- 少し早めに終わらせて、卒業論文を頑張りたい。 <文系男子>